遅くなりました!

平成２５年１１月２６日

白島小　研修部（文責　吉田　嗣教）

徒然なるままに…１０　－県小社研福山大会より

１１月８日(金)に，福山市立御野小学校で，「広島県小学校社会科教育研究大会福山大会」が行われました。神辺の街は，好天に恵まれ，屋内にいるのがもったいないすばらしい秋晴れでした。

１　研究主題とその内容

研究主題	問い続け，学び続ける子どもの育成をめざした社会科授業の創造 －見通し，練り合い，振り返りの場面の充実を通して－

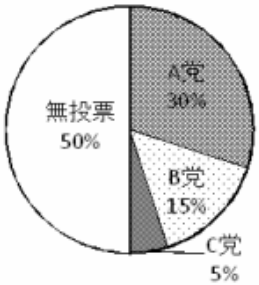
本校は，問いをつなぐ問題解決的な社会科授業づくりを進められています。これは，小さな問いから調べて，「中核となる問い」を立て，予想し，個人・集団で思考し，学習したことを振り返るという過程で学習するというものです。思考・話し合いの場面では，「考え方・話し方モデル」を提示されています。「比べると…。」や「～と～をつなげると。」，「言い換えると…。」というように，子どもが考える手立てを話型として示し，思考を促そうとされています。

２　授業の実際

６年の「私たちの願いと政治の働き」を参観しました。この授業は，「投票率の低下」を取り上げ，その問題点を考えることを通して，民主政治の仕組みを振り返り，選挙の意味を考える学習でした。

この授業から，思考・認識を深めるとは，どういうことかを考えてみました。

今回の授業では，投票率低下の問題点を右のような架空のデータから考えました。ここから，３０％の人のみの意見しか反映されないから，選挙に行って，自分たちの願いを反映させることが大切だと結論づけられました。これは，投票率低下によって，一部の多数派の意見しか反映されないことを数値から具体的に導き出そうとしています。しかし，「選挙に行かないのは，なぜか。」とさらに問い，政治に対する人々の思いから，日本の政治を考えたり，「もっと低下したらどうなるか。」と問い，多数派の割合がさらに高くなり，少数派の思いが反映されにくくなることに気付いたり（２０％で独裁政権が完成すると言われます。ヒトラーがこの方法で政権をとりました。），「投票を義務化することに，賛成か反対か。」と問い，他国の制度や考え方と比較して，選挙権の意味を考えたり（オーストラリアは，投票しないと罰金が科せられるなど，選挙の義務化によって，政権の独走を防ごうとする国があります。）することができます。



〈架空の得票割合〉

資料から，文章から抜き出したり，事実を取り出したりして根拠付けるだけでは，因果的な思考にはなりますが，深まりません。具体的な事実から論じたり，子どもが気付いたことから問いを発したり，相反する事象を提示して，「なぜ。」と問うたりと，さらに踏み込んで考えられる内容と資料を授業者側は，持っておく必要があるのです。

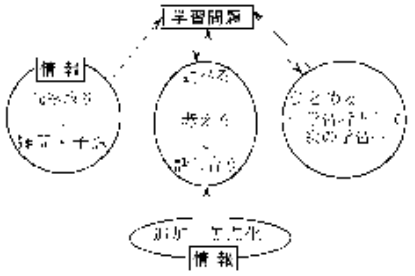
思考ができにくいのは，学習課題を導き出す場面と振り返りの場面に時間を掛けていることも課題と考えられます。この授業では，資料から問いの提示までが１５分，振り

返りに１０分を費やしています。ということは，子どもの純粋な思考と練り合いには，２０分しか掛けられないことになります。

３　指導講話「問い続け，学び続ける子どもの育成をめざした社会科授業の創造」

文部科学省教科調査官　澤井　陽介　先生

単元全体を問題解決的な学習で構成するためには，まず，４５分の授業のイメージ化をする必要があります。情報を提示することで疑問や予想が生まれ，それをもとに学習問題を設定し，それに基づいて言語活動を展開しながら調べ，考えていくという問題解決的な思考過程にのせて授業をつくることです。これを図示すると，右のようになります。



これを４学年の「祭り」などの地域の文化財の保存を考える学習を例に，さらに体系化すると，次のようになります。

１段階目は，情報を丁寧に読みとることです。祭りの様子や由来などから，その特徴をとらえます。

２段階目は，課題をつかむことです。祭りに関する情報から，祭りが行われてきた目的・意味を考える問いを立て，予想を明らかにする流れで，学習計画を立てます。

３段階目は，特色や意味を考え，説明することです。祭りの由来や歴史から，祭りの背景を考えたり，運営する人たちや協力・参加する人たちの思いから，祭りが続けられてきたわけや願いを考えたりすることになります。

４段階目は，全体を振り返り，まとめることです。これまで，祭りが行われてきた経緯と「はじめた人」，「続けた人」，「残そうとする人」など，そこに携わるいろいろな立場の人を時系列でまとめることから，祭りは，人々の様々な工夫や努力によって，継承されていることを理解することになります。

５段階目は，新たな問いを生み出すことです。「今後も祭りを残していくためには，どうすればいいか。」と祭りの意味を問い直したり，「これから，私たちにできることはないか。」と問い，祭りの継承に参画する方法を考えたりすることになります。

４　総括

今回も，探究的な授業を目指していくことが必要だということを感じました。問いをどう組み立てるか，どういう手法で考えさせるかと思考を仕掛けることと子ども相互に意見を聞き，それに対してどう考え，発言すれば，全体の思考が深化するかを考える子どもの探究力の育成が必要です。

御野小学校の子どもには，はきはきとした話し方や堂々とした歌声など，物事に真剣に取り組む姿勢と事実から的確に言葉を使って，問いを立てる力が育っていると感じました。このためには，目指す学びと子ども像，授業づくりのスタンスを学校全体で共有化し，どの学年，学級でも，温度差なく展開されることが必要なのです。

残念だったのは，図画工作の作品です。じっくりと時間を掛けたものとは，あまり思えませんでした。私たちは，子どもを「人」として育てています。授業や指導によって，子どもの様々な能力を伸ばすことが必要だと思います。今の本校の取組を社会科だけにとどまらせることなく，ぜひ，授業改革のための授業づくりの研究にしましょう。